

岐阜和傘の歴史と技術のアーカイブ

デジタルアーカイブ専攻 2021415033 望月 頌

指導教員 久世 均

<キーワード>

岐阜和傘, 加納町, 伝統工芸品, 岐阜市, デジタルアーカイブ



1. 研究目的

本研究の目的は、「岐阜市の伝統工芸品についてデジタルアーカイブをすることにより認知度を高める」事である。岐阜市には、岐阜和傘を始め伝統工芸品が数多くある。本研究では、岐阜和傘の技術と歴史についてデジタルアーカイブを行い、岐阜和傘を始め、岐阜市の伝統工芸品である岐阜うちわ、岐阜提灯と長良川の関係性もデジタルアーカイブしていく。

2. 研究方法

研究対象である岐阜和傘とその他の伝統工芸品の歴史や技術などの資料を集め、文献調査を行う。次に、文献調査で分かった事をまとめ、分析しまとめていく。文献調査だけでなく岐阜和傘の資料や岐阜和傘に関連する施設などを実際に訪問し、撮影をさせてもらう。文献調査や撮影などを基にデジタルアーカイブを作成し、活用の方法とデジタルアーカイブをする事の意義を考察、提案する。



3. 結果と考察

本研究では、岐阜和傘を中心に岐阜市の伝統工芸品と長良川の関係性の文献調査や関連する場所の撮影を行い、岐阜和傘の歴史や技術、岐阜市の伝統工芸品と長良川の関係性が分かった。岐阜和傘は、岐阜市の伝統工芸品であり、2022年の3月には国の伝統工芸品に指定された。かつては、岐阜和傘は生産量日本一になっており、最盛期には、月100万本も和傘が作られていた。岐阜市でも和傘は加納地区で作られており、最初は加納が財政難になり、下級武士に和傘の内職をした事から始まっている。また、分業制で作られており、下級武士だけでなく閑散期の農家の方も和傘の内職をしていたしかし現在は、和傘職人が最盛期より減っており、後継者不足が問題になっている。後継者不足を解決するには、岐阜和傘を若い世代や知らない人に知ってもらう事で、この問題の原因は、岐阜和傘の認知度の低さであり、それを解決できるのは、デジタルアーカイブを用いて、岐阜和傘の歴史と技術を知ってもらう事であると考えた。

本研究では、岐阜和傘や岐阜市の伝統工芸品と長良川に関連する歴史や技術、関連する施設の撮影を行い、ウェブサイトにもまとめる事で、若い世代や知らない人にもアクセスがしやすく、簡単に岐阜和傘や岐阜市の伝統工芸品と長良川の関係性を知ってもらえると考えた。伝統工芸品を知ってもらう取り組みは様々あるが、デジタルアーカイブを用いて、岐阜和傘の歴史や技術、岐阜市の伝統工芸品と長良川の関係性を知ってもらえるのではないかと考えた。